

岩室ネットワーク

■この広報紙にあなたが写って
いましたら、総務課企画係（☎82
-4111内線 215）へご連絡くださ
い。写真をさしあげます。

いい顔、ありがとう



この大代表は、毎年「海の記念日」
にちなんで、全国から漁業・海運・造船
など海に係る業務に功績のあった人
たちを表彰するもので、今回鈴木さんは
乗船歴三十五年以上のもちろん無事故、
無違反の功績が認められて表彰しました。
「いやあ、表彰だなんてはさかしくて
すね。わたしは、ただ自分の生活を守る
ため、ふつうの船員としてあたりまえの
ことをやってきただけなんです。それ
に今回表彰できたのも勤務先（釧路市
・佐々木漁業）が良かったせいでもあり、
ここまで長く乗船できたからなんですよ
でも、今までまじめに勤めてきたことが
認めてもらえたことは、ほんとうにうれ
しいことですね」と控えめながらうれ
しそうに話す鈴木さん。

ところで、鈴木さんは開瀬で生まれ、
小さいころから海に親しんできた関係で、
戦後まもなく船員の道を目指し、北海道へ
と渡りました。仕事は室蘭をはじめ釧路
など各地で四十年にわたり海の男として
活躍してきました。船長歴も長く、ここ



「なにごとともうさだけど、ひとつのことを真
剣にやる——その心構えが大切」と話す鈴木
さん。ランニング姿で飾り気のないのが、い
かにも「海の男」という好印象でした。

すから、そりゃ辛い毎日でしたよ。その
うえ郷里を離れての出稼ぎ生活でしたか
ら、お盆と正月の休みに帰郷するのがと
ても楽しみでした。いま思うとほんとに
四十年間よく勤めてこれたと思います。
でも、そんな毎日でしたが、楽しい思い
出もいっぱいありました。その中の一つ

ら鈴木さんのやさしい、またひたむきな人
柄がうかがえます。いまは船を下りられ
静養中とのことですが、もし機会があれ
ばまた乗船してバリバリがらばりたい、と
話す根っからの海の男——鈴木さん。
大臣表彰本当におめでとうございます。
これからも健康で活躍ください。

こめひと

No. 11

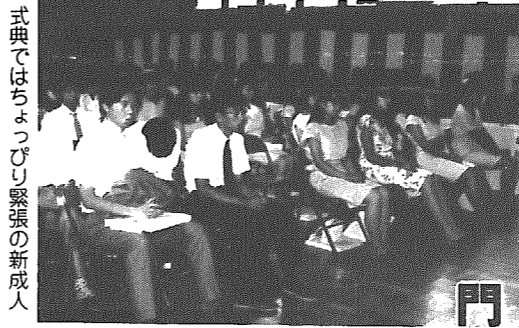
鈴木龍次さん（開瀬一区）

「海」というと、みなさんは海水浴
や釣りなどといったレジャーの場という
イメージが強くないでしょうか。しかし
今月の「この人」は、この海を「仕事の
場」として人生四十年を歩んでこられ、
さる七月二十日「海の記念日」に運輸大
臣表彰を受けた鈴木龍次さん（開瀬
一区・57歳）をご紹介します。

この大臣表彰は、毎年「海の記念日」
にちなんで、全国から漁業・海運・造船
など海に係る業務に功績のあった人
たちを表彰するもので、今回鈴木さんは
乗船歴三十五年以上のもちろん無事故、
無違反の功績が認められて表彰しました。
「いやあ、表彰だなんてはさかしくて
すね。わたしは、ただ自分の生活を守る
ため、ふつうの船員としてあたりまえの
ことをやってきただけなんです。それ
に今回表彰できたのも勤務先（釧路市
・佐々木漁業）が良かったせいでもあり、
ここまで長く乗船できたからなんですよ
でも、今までまじめに勤めてきたことが
認めてもらえたことは、ほんとうにうれ
しいことですね」と控えめながらうれ
しそうに話す鈴木さん。

数年は水産試験船の船長として安全操業
はもちろん、船の安全航海と船員の安全
に努めてきました。
そんな鈴木さんも、この道に入った最
初のころは辛い毎日で、それはそ
れは苦勞の連続だったといえます。
「最初は仕方なく漁師になったもので

に歌手の北島三郎さんと一緒に乗船した
ときなんかは、いろいろ話をしたりして
楽しい思い出の一つに残っています」と
当時を思い浮かべながら話す鈴木さん。
ところで、最近の漁業界は二百カイル
問題などで社会情勢が急変し、厳しい環
境下にあります。今回、鈴木さんも試験
船の減船のため船を下りること
になりました。「わたしは、四
十年間の船員生活で通算して四
百四十三か月間の乗船勤務をし
ました。自分でもこの乗船歴は
自慢の一つだと思います。でも、
こんなに長期間乗船できたのも
家族の支えと、まわりの人たち
の温かい助けがあったからだど
感謝しています。それに今回の
表彰では子どもたちに、まじめ
に働きとおせば最後は何らかの
形でむくわれるというこの模
範になれたことが最高の喜びで
誇りです」とまじめな態度で仕
事に励んできた鈴木さんはい
ます。それらの言葉一つ一つか



式典ではちよっぴり緊張の新成人

門出に集う懐しい顔

先月十五日、岩室村公民館で成人
式が行われました。ことしの新成人
は男子六十一人と女子六十一人の百
二十二人。夏真っ盛りの式だけに、
タンクトップ、ポロシャツといった
軽装組から、ピシッとスーツ姿に身
を固めた正統派？まで色とりどり。
「ホント久しぶりね。元気だった」
「ずいぶん大人っぽくなっちゃって」
「」など式典がはじまるまで近況報
告など話に花が咲いていました。



ジャンケンで勝敗を（西中対開瀬）

親子で真夏のプレーボール

甲子園の高校野球にタイミングを合わせた
わけではありませんが、先月21日、村民野球
場と岩中グラウンドを会場に真夏のプレーボ
ール——親子ソフトボール大会が開かれまし
た。毎年好評の親子大会とあって、ことしは
19チーム約 500人が参加。主役の子供たち（小
学生）とお母さんをはじめ、応援のお父さん
たちで1チーム30人前後が平均。多いところ
ではベンチに全員が入りきれないなんていう
チームもあり大盛況。また試合では各チーム
特訓の成果があつてか、白熱した試合が続ぎ、
中には同点のためジャンケンで勝敗を決める
試合も多く、夏の熱さに比例した熱戦が展開
されました。大会の結果は①和納1区ドライ
②和納6区③横曾根④開瀬⑤和納11区そして
敢闘賞が和納10区チームでした。



夏を告げる和納盆市

夏の風物詩——盆市と縁日ぐっこ

和納盆市と縁日ぐっこ（中央保育園）

和納地区にお盆を告げる「夏の
風物詩」として、地区民に親しま
れている和納盆市が先月十日、願
善寺前の路上で開かれました。
これは和納地区に古くから続い
ている市で、お盆を間近かに控え
たこの時期に、お盆用品などをそ
ろえるために開かれています。
この日の市には、十一軒の出店
が一列に軒をならべ、盆花や衣料
品などが売られ、「お母さん、あ
れいいね」「おばあちゃん、これ
買ってよ」と子供たちからせがま

れながら買い物をする、お年寄り
や親子連れでにぎわいました。
一方、中央保育園では先月十一
日、園児たちの楽しみのひとつ「縁
日ぐっこ」が開かれました。
こちらの出店は、保母さんや園
児らが作った手づくりの品物を並
べた出店が五軒。お店屋さんになっ
た保母さんの威勢のいいかけ声
に、子供たちはあつちの店、こつ
ちの店と飛び回りながら、夏の
暑い日差しも忘れて買い物を楽し
んでいました。



中央保育園の縁日ぐっこ